

漫 録

◎ 熊野路を巡つて

和歌山縣土木課長 小 原 興



我が和歌山縣下の道路は國縣道を加へて其の延長約三百六十里ある、併し其の道路の大部分が峻坂難路であつて、車の通する區域が甚だ尠くない幅員の如きも平均一間二分以下の區域が、全長の四分の一に及んで居る、夫れで他の箇所でも、概ね險路が澤山あつて、自動車など充分に其の利用が出来ない有様で、其の道路の發展して居ない程度は、他の各府縣に於て殆んど其の比を見ない位に思はれる、されば縣民の多數は、道路の改修に付ては、非常の熱望を持つて居るけれども、縣費の割當が其の希望に伴はない次第であつたので、これまで思ふ様に仕事も出来なかつた、然るに先日偶々紀南熊野地方の道路を巡視した處、殆んど毎日の様に陳情攻に逢ふて、

閉口した、其の各方面の人々よりの希望やら、不平やらを簡約して見ると、次の様な都々逸が出来たから御目に掛ける、定めて他の府縣でも御同感の土地もあらうと思はれる。

縣 民 の 叫 び

縣會議員のいふこと聞けば
汽車は通はず海路は荒れる道路を善くする外はない
斯うもかまはず見捨てよよいか一度見しやんせ熊野路を
村會議員……………

農村振興唱へる人でなぜに氣づかぬ道普請

道路の悪いに不平は無理か黙れぬ證據にや家が減る
郡長のいふこと聞けば

せめて役場と役場に通ふ道路は車道にして欲しい

車乗つたか自動車見たかなどと不幸な村もある

村長のいふこと聞けば

村を富ますは工夫はあれど何より先立つ道普請

私しが在所にや寶はあれど道路がないので持ちくさり

實業家のいふこと聞けば

車かよはず道路さへ出來りやどんな負擔も厭やせぬ

道普請縣費がいらるとて思案はおよし一文惜みに百の損

小學校教員のいふこと聞けば

道路が善くなりや人智も進み仕事も殖えれば富も増す

道路がない故貧村なれど分校四つもある始末

小學生徒のいふこと聞けば

私しの學校峯越し二つ渡る川には橋もない

私しや繪本で見ると外に車といふもの知りはせぬ
村人のいふこと聞けば

道路のないので暮しがつかぬ辛抱して居りや餓ゑじに

何やかんやと租税は取るが道路の一つも附きはせぬ

大正の御代になつてもまだ道路つかぬ里の便利がうらめし

い

隣り村には自動車走る私しが在所はわらぢがけ

道が悪ふて賣るもな出せず買ふもな高うで瘠世帯

若い人々のいふこと聞けば

戀しい殿御の安否を聞けど道路が不便で片だより

思ひ出す度逢びたいけれど逢ひに行けない悪い路

勞働者のいふこと聞けば

どんな苦勞もいとひはせぬが辛抱しきれぬ此の難路

きつい山坂なほしてやらにや馬の苦勞がいぢらしい

(終)

◎雜誌報告主任となつて

神奈川縣道路主事 齋

藤

弘